

教員の授業数について

各教科の授業数に従って時間割を作っていくと、時間割を3種類作らないといけないということは、すでに述べました。そこで、サンプルとして下のような＜A週＞＜B週＞＜C週＞という3種類の教科ごとの時数を示してみます。だいたいの学校がこのような形で時間割を組んでいると思います。

＜A週＞

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	学活	総合	合計
1年	4	3	4	3	2	1	3	2	4	1	1	1	29
2年	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29
3年	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29

＜B週＞

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	学活	総合	合計
1年	4	3	4	3	1	2	3	2	4	1	1	1	29
2年	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29
3年	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29

＜C週＞

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	学活	総合	合計
1年	4	3	4	3	1	1	3	2	4	1	1	2	29
2年	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29
3年	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29

ここで、何を言いたいのかというと・・・。

例えば、1学年7クラスの学校があったとします。「音楽」「美術」の時数を見ていただくと、各学年週に1時間の時には、持ち時間数は、各学年で7時間。3学年で21時間ということになります。これは、担任を持たなければ、教員1人でちょうどよい位の時間数です。(実際には、これに総合的な学習の時間1～2時間と担任ならば道徳・学活の時間が加わります)担任を持っていないことはないですが、ちょっと厳しい時数になります。

しかし、A週やB週のように1年生で週2時間をやることになると、授業中は28時間になりますから、1人の教員で受け持つことは不可能です。当然、2人の教員で受け持つことになります。すると、どの学年も週1時間の時には21時間を2人で受け持つので1人当たりの授業数は10～11時間。担任を持っても14～15時間ですから、他教科の先生より5～10時間程度少ない持ち時数になります。これで、諸事情により担任を持たなければ、1日に1～2時間授業をやるだけという状態になります。裏を返せば、1日5～6時間をこなしている先生も出てくるわけです。

1学年5クラスの学校が先生方の持ち時間が多くて大変だという話をよく聞きます。主要5教科といわれる教科は、年間を通して時数は変わりませんが、英語・国語・数学・理科・社会と週3～4時間の設定になっていますが、ここの教科では、学校に3人～4人の教員が配置されます。だいたい、英語・国語は4人の教員が配置されることが多いようですが、数学・理科・社会あたりが3人の配置になることが多いようです。すると、1学年に1人の教科担当が配置されますが、週3時間の学年は5クラスを受け持つても15時間

ですが、週4時間の学年は20時間になります。担任をもつと24時間まで増えてしまいます。週3時間の学年から1クラス4時間分を応援してもらうこともありますが、2学年にまたがって授業をするのも負担増になりますし、学年の生徒は全員みたいという先生が多い為、当たり前のように20時間受け持つ先生が多いです。

3年生の担任をして、24時間の授業をしながら、生徒の進路指導をしていくなんて、信じられないくらいの重労働だと思いますが、それをこなしている現状があります。

そんなことから、教科に割り振られる時間数の再考を、また、クラス数に対して教員数を決めるのではなく、教科ごとに教員数を決めてもらいたいものだと思います。

MCD